

委員会審査の報告

(3月定例会で委員会に付託された議案等の審査を行いました。)

総務企画委員会

委員長 二宮 淳

《令和6年度大洲市一般会計補正予算》

◆備蓄物資・避難所管理経費について

説明 昨年12月に成立した国の補正予算に盛り込まれた新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用し、大型トイレカーや循環型シャワー設備のほか、折り畳み式ポータブルベッドなど避難所における備品等の整備を行うもの。

問 整備予定のトイレカーは障がい者でも利用できるのか。

答 車体の後方に車椅子用の昇降リフトを装備し、オストメイトにも対応したトイレとなっていることから、障がいのある方にも安心して利用いただける設備となっている。

問 循環型シャワーや循環型手洗いスタンドとはどのような設備か。

答 循環型シャワーは、1回のセットで約2百名の方が利用できるものとなっており、今回2基の購入を予定している。循環型手洗いスタンドは、限られた水をその場で循環させて自動で手洗いが可能なもので、いずれの設備も災害時の避難所環境の向上をはじめ、孤立対策や水道管の破断などに対応できるよう準備するものである。

問 今後の避難所における整備方針はどう考えているか。

答 これまで災害派遣により他市の避難所支援を経験した職員を中心に検討会を開催しており、今後示される南海トラフ地震への被害想定も踏まえながら、どのような設備がどれぐらい必要なのかを含め、整備方針を検討していきたい。

問 トイレカーをはじめとしたこれらの備品はどこに配置するのか。

答 防災センターへの配置準備を進めている。

問 市民への周知も兼ねてこうした設備を見学できるような機会があれば、防災意識の向上にもつながると考えるがいかがか。

答 今後、市民への周知や利用の仕方など、こうした設備に触れてもらえる機会を考えていきたい。

《令和7年度大洲市一般会計予算》

◆肱南地域交流センター建設事業について

説明 カヌー艇庫を含む、肱川で人々が楽しめるイベントスペースを併設した複合施設として新築するもので、新築工事費をはじめ運営にかかる備品の整備費などが計上されているもの。

問 地域住民からの意見や要望をどのように施設に反映したのか。

答 令和5年6月から建設検討委員会を3回開催し、その中で施設規模や機能面、さらには屋外テラスや駐車場の確保など様々な意見をいただいている。それらの意見を集約したうえで設計等に反映させるとともに、建設地が大洲市景観計画に掲げる「親しみのある都市景観創造区域内」であり、また肱川景観保全区域を望む位置にあることから、施設の配置や高さのほか、屋根や外壁などの色彩等についても配慮している。

問 令和8年2月完成予定としている工事の進捗状況は。

答 令和6年4月から始めた旧肱南公民館の解体工事が9月に完了し、新築工事に係る入札手続きを経て、昨年10月には起工式を行い、翌11月から本体に工事に着手している。基礎杭の施工が予定より遅れたことから工事に若干の遅れは出ているものの、工程管理に努めるよう指示しており、予定している令和8年2月末の完成を目指し進めているところである。現在、建物の基礎や柱などの躯体工事に着手しており、進捗率は約10%である。

問 災害時における避難場所としての配慮はどうなっているか。

答 同施設は2階のホールを避難場所とし、防災備蓄倉庫を完備するよう計画している。また、水害等を想定して電気設備類を屋上に配置しており、カヌー艇庫にはシャワー室を設けているため、長期的な避難時には活用できるよう考慮している。

要望 地域の方々が安心して利用できる、親しみやすい施設になるよう運用にあたっては配慮いただきたい。